

北海道産ウールで ツイード

中外国島



①北海道牧場での毛刈り作業（えこりん村）
②「愛情を持って勤める商品」を目指した

この取り組みは、18年4月に直営オーダーサロン「コンセプトテラー」を開業したことが契機になった。「接客する販売員が愛情を持って顧客に勧める商品がほしいか」（伊藤社長）という思いがスタートだ。その後、北海道の牧場経営者を紹介される。北海道で飼育されて

紡績、製織、縫製まで一貫

紳士毛織物メーカー、中外国島（愛知県一宮市、伊藤核太郎社長）は北海道産のウールを使ったツイードを開発、直営オーダーサロンで紹介するほか卸売りも始めた。原料から紡績、製織、縫製まで国内一貫のウール製品を打ち出している。（浅岡達夫）

れている羊は1方頭。しかし「食用用途がほとんどで、牧場規模が小さいなどの理由から羊毛の95%は捨てられている」という事情を知った。そこで、捨てられる羊毛を利用して、100%国産の毛織物・洋服の開発ができないかと考えを切った。

北海道産ウールに適した生地としてツイードを想定した。第1弾としては、恵庭市のえこりん村のほか道内牧場から、ポールドーセット種を中心にサフォーク種なども合わせて28〜30頭の原毛400kgを入手した。これを帯広市のくさなぎ農園に運び、障害者の就労支援によって手洗い加工した。洗い加工済み原毛240kgを大阪の毛紡績、泉州羊毛工業に持ち込み、トップ染めと紡毛紡績を経て、ベージュとチャコールの2色の7番単糸にした。

ジャケット換算100着

中外国島本社工場のプロシエクタイプル型織機で生産したのは、「耳をきれいに織りたい」というのが理由だ。8反の生地を製織した。これはジャケット換算で100着程度になるという。「羊毛は人の手によってメリノ種などに変えられた歴史がある。しかし本来ウールはどんな羊の毛でも生地や洋服になる。ウールの源流であるツイードによって、羊の毛が生地として洋服になる様を生活者に見せたい」と伊藤社長は話す。

ポールドーセット種の特徴はバルキー性の高さやハリコシの強さ。「市販のツイードでは得られないシルエツトを保持し、着心地の良さが表現できた」と強調する。すでにオーダーサロンなどから「引き合いが来ている」という。国産ウールを使用すれば、豪州など海外のウールを中国で加工して日本に持ち込む通常の方法よりもトータルの加工距離が短くなる。「運送を合理化できるのでサステイナブル（持続可能）も訴えられるのでは」とも考えている。国内の羊飼育は主に食用だが、「衣服用の繊維原料以外に皮革も利用できる。羊を身近に感じることができると話す。」

SENKEN

織研新聞

2020年
(令和2年)

4月7日
火曜日

織研新聞社

発行所
〒103-0015 東京都中央区
日本橋箱崎町31-4

BRAND PACKAGING
SOLUTION



KOBAORI

コバオリ株式会社

https://www.kobaori.biz/



編集局

03・3664・2341

業務局

03・3639・8030

大阪支社

06・7639・0570

名古屋支社

052・231・2600

京都支社

075・221・2640

九州支局

092・761・6131

上海支局

+86・021・6249・8300

ご購読は ☎ 0120-559801